

令和5年度 玉名女子高等学校 学校関係者評価報告

学校関係者評価委員会

実施日 令和6年2月28日(水)

出席者 法人評議員と保護者代表PTA役員

- 平成5年度参観行事：包丁授与式・体育祭・文化祭・戴帽式・学校公開日等
- 自己評価の分析について 資料の配布と説明(教頭)
- 感想・意見や提案(評価者)

1. 「学校評価アンケートについて」

学校評価について

各項目について課題の指摘等真摯な姿勢で学校評価に取り組まれていると感じた。

生徒・保護者と教職員間の評価のズレや「わからない」の回答が多い項目について、その原因分析を特に教職員の方に時間をかけて求めていかれると、また前向きな対策が出てくるのではないかと思う。

Cの評価項目は、コロナ禍以前のように安心して学校生活を送れるようになると、教師、保護者、生徒の関係も活発化し、行き違いの点も修正できると考える。

アンケートの結果、「この学校に入学して良かった」と回答した生徒が減少し、教師もその認識があるということであるが、満足度が低い理由をさらに深掘してアンケートは実施されているのでしょうか。その調査結果をふまえて、保護者との情報交換・連携の機会を設定してほしい。

肯定的な部分をさらに伸ばし、否定的な部分を修正する取り組みを行ってほしい。

教職員の意識向上を図り、「そう思う」「どちらかというと思う」100%をめざす。

評価総括は「現状」「課題」「具体策」の表記をお願いしたい。

重点目標(1) 安心・安全に過ごせる学校づくり

いじめの項で、生徒たちの肯定の回答が少ないのが気になる。安心・安全な学校づくりは学校に求められる重要な要素の一つである。いじめは生徒にとって大きな不安要因であり、状況によっては命にかかわる危険性がある問題であり、絶対に防止しなければならない。いじめに関する教師と生徒・保護者間の意識の大きな乖離の原因を全職員で共通理解し改善に努めてもらいたい。学校ではいじめを防ぐために日常から生徒とのコミュニケーションを密にし、教師と生徒、生徒間の信頼関係を築き、支持的風土の学級づくり、集団づくりを進め、生徒が今以上に安心して楽しい学校生活を送れるようにしてもらいたい。学校の教育活動の根幹に人権尊重の精神を据え、全ての教育活動を通して生徒に自他ともに尊重する態度を育ててほしいと思う。

また、学校の安全点検を充実し、学校施設や設備の瑕疵による生徒の事故やけがの防止に努めてほしい。

重点目標(2) 授業改善、基礎学力の充実及び専門性向上のための指導

教職員、生徒共に基礎学力の向上と、読書、図書館利用を課題として挙げている。学校全体で学習意欲の向上が感じられ、よい傾向だと思う。

朝読書やマナトレについては、基礎学力定着のためにも重要と考えるが、生徒はまだしも教師の評価が低いのは問題。教師が疑問を持っているものが軌道に乗らないのはある意味当然であり、今一度、管理職と教員、場合によっては生徒も入れて新たな効果的手法を検討し、やる気をもって取り組むことが必要。

基礎学力の根底にあるものは読解力であり、読解力を育てるのは読書(しかも本を読むこと)だと考えている。「反省と課題」の中には「読書の推進についての教師の肯定的評価は5割程度である」だけだった。基礎学力の充実を図るために、読解力の視点から生徒の実態を分析し、把握して対策を打つという方向もあるのではないかと思う。

IT、TVなどビジュアル環境の中、読書の習慣を得ることは大変難しいと思われる。生徒と教職員が、ともに図書館の利用を多くし、朝読書を中心に一定時間集中して読書されることの継続を希望する。

保護者の図書室利用を行い、家庭で生徒と一緒に読書をする環境を整える。今年新設された、熊本こども図書館 こども本の森熊本など、外部の施設を訪ねる機会を設け、図書に多く触れることを期待する。

タブレット端末やWi-Fi等を活用した授業が展開されているが、効果的な活用を図るためには学習指導要領の深い理解と教材研究が必要である。教材そのものに関する理解と合わせ、各科や教科等に応じた適切な活用を進めながら、教師の指導力が向上するよう期待する。全職員参加の研究授業や授業研究会を年間計画に従って実施し、職員が研究を深める機会を今よりも増やすことも考えられる。また、学校外での研修会参加の機会が少ないと思われるので、自己研修の充実がより重要となる。自己研修に加えて校内で各科や教科別の研修を充実して全職員の専門性の向上を期したい。

『「わかりやすい授業になるように工夫している」と評価した生徒は微減。』また、「1年生が最も低い」とあった。新しく入学してくる生徒の実態を把握することも大事なのではないか。玉名市立玉名中学校において、11月1日に研究発表会がある。今後入学してくる生徒の実態を知る上で手掛かりになるかと思う。

教職員、生徒共に専門性習得のための学習の取り組みが充分であると評価されている点は、玉名女子高校への進学の評価があらわれている点として特筆すべきものと思う。

地域のOB看護師の方々との連携を図り、看護科学生への看護教育を充実できる環境を整えたり、地域の多くの企業等との連携を図り、産学協同の充実がなされることで指導力等の更なる充実の一つになればと思う。

専門的な学習内容の充実、資格試験や検定合格に対して積極的な指導を重視、本校の強みを強化、抜本的な改革が必要。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」100%をめざす、資格試験合格率の開示、10分間読書週間を資格試験勉強時間へ変更など。

重点目標（3）基本的生活習慣の確立を図るための取り組み（見えない学力の充実）

学校内のみならず、学校周辺の環境美化にも徹底的に取り組みされており、いつ学校訪問してもゴミひとつない環境に感謝している。環境は人をつくると言いますが、清掃や整理整頓は教育環境を整えるうえで基本的に必要なことである。

生徒が校内や学校周辺で明るい挨拶ができている光景をよく見かける。挨拶を始め、基本的生活習慣を定着させるためには、これまで以上に生徒会との連携を強化し、生徒のアイデアを生かして生徒と先生が協働することで生徒の自覚と行動意欲を高めることも効果があると考え。取り組みの結果を定期的に評価し、その成果を生徒と共有するとともに課題に気づかせ、その課題に取り組むことで改善が図られるのではないか。

重点目標（４）文武両道

先生方の献身的な努力により活発な部活動が展開されている。先生と部活動生徒の好ましい人間関係が築かれ、文武両道の学校生活を送られているように感じる。勉強と部活動の両立は難しい面もあるので、生徒一人ひとりの卒業後の目指す進路の実現に向けて、普段から生徒とのコミュニケーションを大切にして生徒の学習を支援する体制も構築したい。なお、指導に当たっては体罰や生徒に強いストレスを与えるような言動は避けなければならない。

重点目標（５）人権教育の推進

次年度に向けて人権教育の推進をお願いしたい。小・中学校でも人権教育の時間が少なく、人権の重要性を学ばせてほしい。

重点目標（６）生徒と向き合う時間の確保

教職員の働き方改革は、社会全体の課題でもあると思う。世間の動向を敏感に取り入れることも必要になってくると思う。

２．入試分析

定員を満たしていない状態が続いているが、中学生の減少が進行している状況下では生徒の確保に関しては健闘していると言える。これは先生方の熱心な生徒募集活動、学習や部活動等における生徒の活躍と教師の適切な指導、検定合格、資格等の取得や教育情報の発信など学校の取り組みの成果である。

そのような中、玉名・荒尾地区の地元出身の生徒数の減少が続いているのは気になる点である。県北全体でも減少していることから、熊本市内の高校へ流れていることが考えられるが、熊本市内高校への入学志向が高いのは以前からのことであり、何故近年その現象が顕著になったのか、その原因を生徒へのアンケート調査や中学校に対するヒアリング等により解明し、対策を立てて学校を挙げて取り組み生徒増につなげたい。

吹奏楽部人気により受験者が増えているが、一部活の人気に偏った増加は、危うさも併せ持つことになる。多様性の面からも、他の分野の魅力をもっとアピールする必要がある。

特進コースの入学者数を見るとコースとして成立するのか危機感を覚える。HPを見ても取り組み紹介が活発に行われていないようであり、カリキュラム内容や進学実績をもっとアピールする必要があると思う。普通科生徒の伸びに期待していると思われるが、特進コースの生徒増のリード役にするのかその位置付けをはっきりさせる必要があるのではないか。

特に看護科の入学者の減少は厳しい状況である。コロナ感染等の環境の中で医療現場の激変などによる要因もあるが、看護師への関心は高いと思われる。地元の中学校、小学校などとの交流を多く行い、繰り返し玉名女子高を紹介する機会を多く持つことが期待される。地域の種々の催事などへも多く参加し、また地域のボランティア活動にも積極的に参加し、玉名女子高を多く知らしめる機会となる事を期待します。